

雑草防除技術開発の現状

農研機構中央農業研究センター 小林浩幸

- 防除対象の変化
- 防除対象品目、場所の拡大
- 面的管理、異分野（病虫害防除等）との連携の必要性

1992年に書かれた総説に現れる転作田の主要雑草(野口 1992)

第1表 東北地域の転換畑における優占雑草の出現頻度¹⁸⁾

優占順位	転 換 後 年 数					
	1		2		3	
	種 類	出現頻度(%)	種 類	出現頻度(%)	種 類	出現頻度(%)
1	ノビエ	94.1	ノビエ	95.2	メヒシバ	88.0
2	メヒシバ	76.5	メヒシバ	85.7	ノビエ	84.0
3	タネツケバナ	64.7	タネツケバナ	61.9	タネツケバナ	64.0
4	トキンソウ	55.9	トキンソウ	52.4	ノミノフスマ	52.0
5	ノミノフスマ	55.9	スズメノテッポウ	47.6	エノキグサ	48.0
6	カヤツリグサ	52.9	アゼナ	42.9	カヤツリグサ	44.0
7	スズメノテッポウ	47.1	スベリヒユ	38.1	ハコベ	44.0
8	アゼナ	47.1	カヤツリグサ	38.1	トキンソウ	40.0
9	ヤナギタデ	38.2	ノボロギク	33.3	イヌビユ	36.0
10	タマガヤツリ	32.4	シロザ	33.3	シロザ	36.0
11			ヤナギタデ	33.3	スズメノカタビラ	36.0
12			ノミノフスマ	33.3	アゼナ	36.0
13					スベリヒユ	36.0

野口 1992. 栽培技術の変遷に伴う雑草群落の変化. 雑草研究 37, 1-7.

畑作では外来・難防除雑草の増加

オオブタクサ
オオオナモミ

シロザ(在来)
ホソアオゲイトウ

オオイヌホオズキ

マルバアメリカアサガオ
マメアサガオ
マルバルコウ

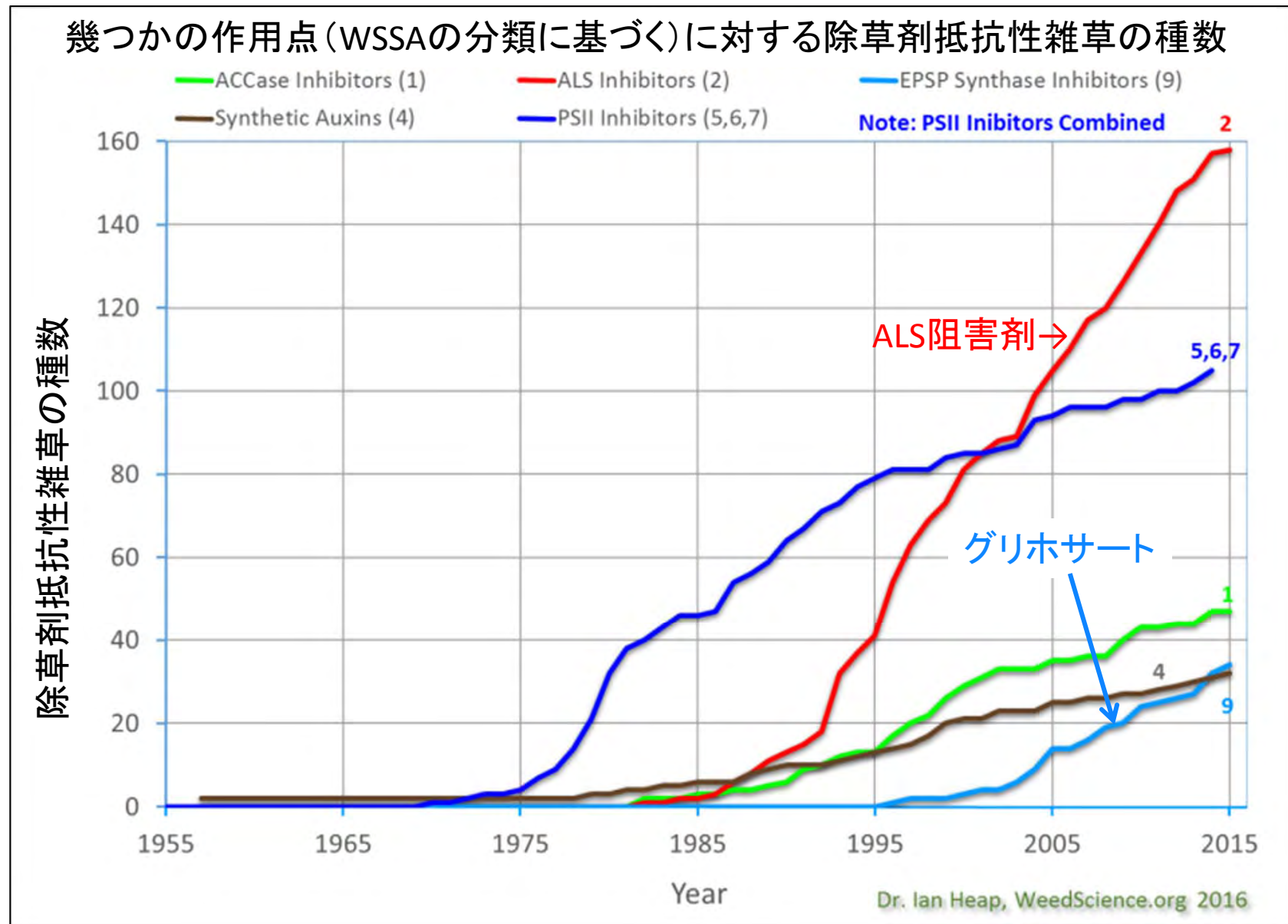
つくば市、2015年6月

エノキグサ(在来)





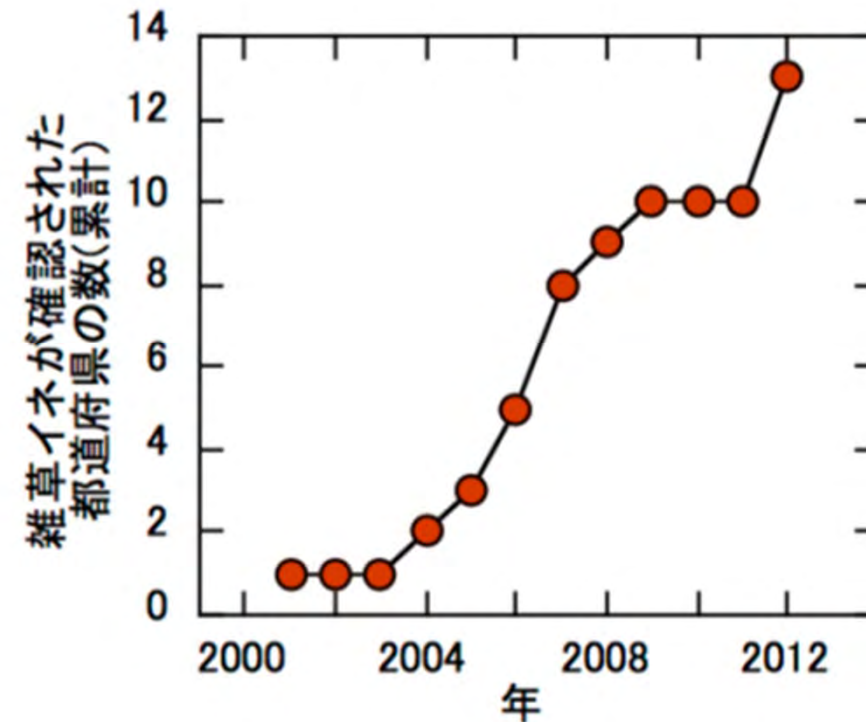
除草剤抵抗性雑草の出現と拡大



雑草イネの広がり



収穫前に採取された赤米雑草イネの穂。
収穫前に脱粒し、圃場内で雑草化する。
水稻と同じイネなので、防除は極めて困難。



雑草イネ確認事例の推移

遺伝子解析と脱粒性により雑草イネと同定された試料の採取地をもとに集計(内野, 中央農業研究センター未公表データ)

<http://www.naro.affrc.go.jp/org/narc/weedyrice/weedyrice.pdf>

- 多様な品目の雑草防除

転作田における作付品目の多様化。←省力化

- マイナークロップの雑草防除

担い手不足、高齢化への対応、生産振興の要請。

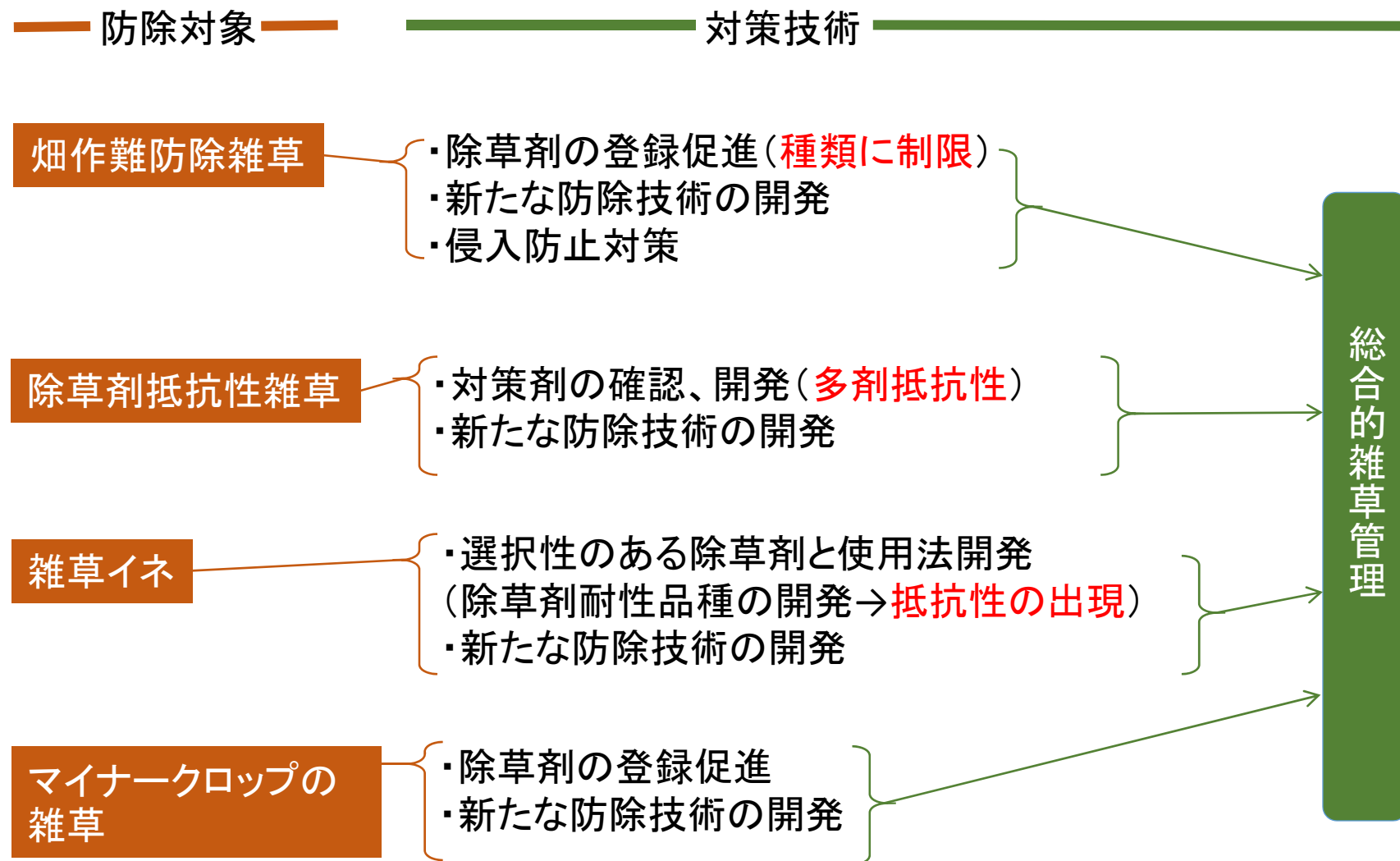
- 畦畔や法面、休耕地

担い手不足、高齢化への対応、被災地復興。

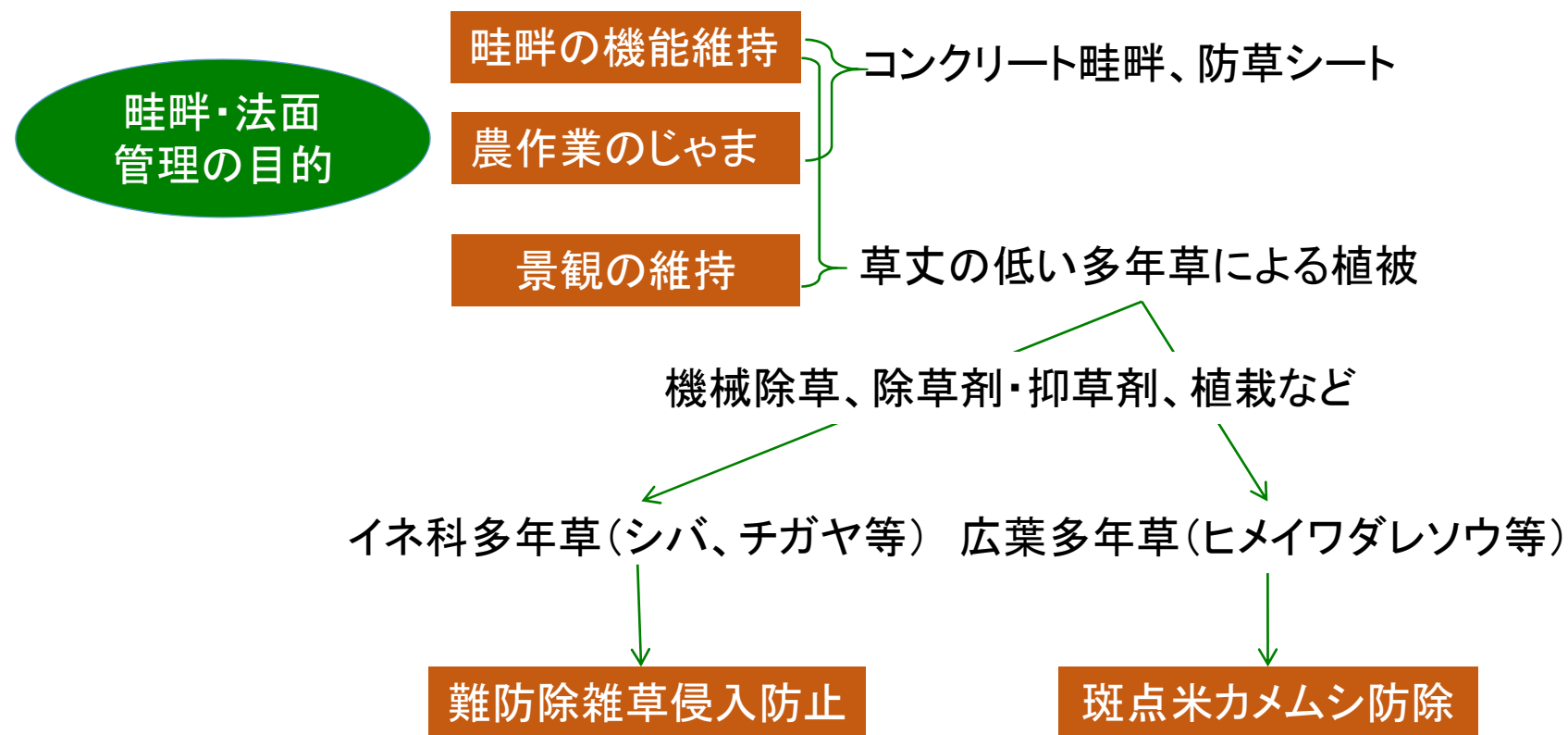


福島県、2012年10月

持続的な防除→総合防除(総合的雑草管理)



畦畔、法面など： 病害虫、外来雑草の温床 ← 面的管理



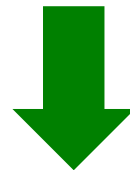
病害虫、雑草防除などが矛盾しない面的な総合対策
(異分野との連携)

- 農研機構 15名程度

(東北 4名、関東・東海・北陸 6名、近畿・中国・四国 2名、九州・沖縄 3名)

- 都道府県 0～若干名

- 大学 「雑草」と名のつく研究室は数研究室



全国・地域毎の情報共有システムの構築が不可欠

情報の一次ソース

農業者、メーカー、都道府県の研究機関、大学、国研等

情報共有・議論の場

〈農研機構主催〉

参加者限定

- ・雑草研究会(全国対象)
- ・各地域の水田・畑作研究推進会議等

〈植調協会主催〉

- ・除草剤試験成績検討会

病害虫フォーラム等

オープン

〈学会〉

- ・日本雑草学会講演会等
- ・雑草情報共有システム研究会集会

情報の共有・蓄積、提供の場

〈中央農研と植調協会が隔年で主催〉
都道府県職員等対象の研修会



日本雑草学会学術研究部会
雑草共有システム研究会のホームページ→

